

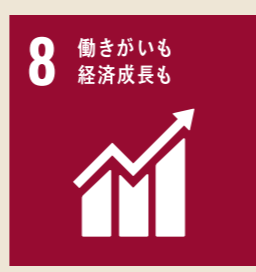
# 若い世代が学び・集い、 更なる魅力ある紀南地域へ

人口流出や農業担い手不足などの地域課題を解決すべくはじまったのが、  
三重大学の「紀南オープンフィールド構想によるみどりのアントレプレナー共創拠点」プロジェクトです。

## 20年後の紀南地域のイメージ



## スマート技術がミカンも世界も変える



紀南地域の基幹産業は、かんきつ栽培。過酷で気まぐれな自然を相手に、労働力と経験値を駆使して発展してきましたが、人口減少が続くことによる懸念も。そこで将来、農産物の生育状況をデジタル管理して、ロボットが収穫なども手掛ける機械化を計画。農作業がオートメーション化されれば、生産者の負担や農産物のロスも軽減されます。消費者のニーズにあった作物をより効率的に生産・流通させることが可能となり、生産者や消費者のライフスタイルまでも変えていきます。



〈現在のミカン収穫の様子。農作業には人手が欠かせない〉

## 地域の課題を解決に導く エキスパート養成所



現在、紀南地域の課題は住んでいる人だけのものかもしれません。しかしメタバースやデジタル空間を使えば、将来、地球の裏側から紀南地域の地域課題を華麗に解決してくれるヒーローが誕生するかもしれません。地域課題の解決に乗り出し、自ら実行へと導くヒーローを育てるのが「アントレプレナーシップ教育」です。紀南地域の資源や課題解決を通して、自分のやりたいことを実行できるアントレプレナーたち。例えば、インタラクティブなロボットを介してミカンを世界中で販売できるヒーローかもしれません。



〈知恵を寄せ合って地域課題に皆で頭をひねる〉

## DX 農業技術の修得を通して 新しい仕事の創出を目指す



かんきつ栽培に役立つ新しい農業技術を学ぶことは、未来をつくること。例えば、今まで自力で行ってきた獣害対策を、ドローンやロボットを活用したものにすることも「アグリテック教育」です。メタバース空間で獣害対策の議論を行い、広く知恵を求めめることも可能。さらに、の高度な技術を自分のものにしていくのも、アグリテック教育の大事なところ。単に教えられたものを自分の技術へ。使いこなせば、そこから新たな知恵や技術が生まれます。



〈作物被害を出すサルを音や自力で追い出す〉

## 歴史ある紀南地域から始まる 時空を超えたバーチャル社会



紀南地域には、平安時代、熊野までの道を参詣のために歩く人が多くいました。「紀南地域で、時空を超えて過去の人達とも交流できたら……」。三重大学はそんな未来を描いています。紀南地域を訪れると住人の方々の交流に加えて、将来はメタバース空間を活用して昔の紀南地域の人々と話すことも。さらに現地に来なかった旅行者ともメタバース空間で会えます。MRゴーグルをかければ、現実とバーチャルが融合した新たなふれあいの形が叶います。



〈バーチャル空間では遠方にながらにして観光ができる〉



紀南オープンフィールド構想による  
みどりのアントレプレナー共創拠点